

# トニック・ソルファの掛図と教本に見る明治期の音楽教育

津 上 智 実

Music Education in Meiji Era through Wall Charts and Textbooks of the Tonic Sol-fa System

TSUGAMI Motomi

---

神戸女学院大学 音楽学部 音楽学科 教授

連絡先：津上智実 〒662-8505 西宮市岡田山4-1 神戸女学院大学音楽学部音楽学科

ZAT03327@nifty.com

## 要 旨

本論は、神戸女学院大学図書館所蔵のトニック・ソルファ掛図（全19本）について、その音楽的内容を検討することによって、明治期音楽教育の実態の一端を明らかにする。各掛図の掲載内容を検討し、同じく本学図書館所蔵のトニック・ソルファ教本『トニック・ソルファ・ミュージック・リーダー（*The Tonic Sol-Fa Music Reader, revised and improved*, by Theodore F. Seward & B. C. Unseld, Approved by John Curwen. The Biglow & Main Co.）』（1890）の教育内容と付き合わせたところ、次の結果が得られた。1）これら19本は、モデュレイター（音階図）3本、リズム譜3本、トニック・ソルファ譜13本の3種から成る。2）トニック・ソルファ法の教程は6段階で構成されるが、第1段階に属する掛図が11本、第2段階が5本、第3段階が3本である。3）モデュレイターとリズム譜は第1～3段階に対応するものが各1本であるが、リズム譜については第1、2段階と掛図に打たれた番号との組み合わせに齟齬が見られる。4）トニック・ソルファ譜は第1段階9本、第2段階3本、第3段階1本で、第1段階のものが圧倒的に多い。これは、音楽教師 E. タレー（1848～1921）が「最初より七音を用いられず、ドミソの三音を以って其の音程を明らかにする為掛図を用いられたり、手を上下にされたり、又は文字に高低を付けて生徒を階名で答えしめられました。右の三音を明白に覚えしめた後、関係ある音を順次に教えられ、決して先生は一時に多くの事を教えられず、One thing at a time を繰り返し繰り返し申されました」という本学卒業生の回想にも合致する。5）1925年の本学財産目録には73本のトニック・ソルファ掛図が記載されており、これら19本はその一部を成していたと考えられる。

**キーワード：**トニック・ソルファ、掛図、音楽教育、エリザベス・タレー、神戸女学院

## Summary

This paper examines the nineteen wall charts of the Tonic Sol-fa System possessed by the Kobe College Library. By comparison with the textbook *The Tonic Sol-Fa Music Reader, revised and improved* by Theodore F. Seward & B. C. Unseld, The Biglow & Main Co., 1890, also possessed by the Library, and signed by one of the music teachers of the college, namely Mrs. Stanford (1856-1941), the following facts have been made clear: 1) These nineteen charts can be divided into three groups, namely, three modulators, three rhythm charts and thirteen tonic sol-fa charts. 2) Eleven of them are for the first, five are for the second, and three are for the third step of the six steps of the Tonic Sol-fa teaching system. 3) Of the modulators and the rhythm charts, each of the first three steps has one corresponding chart, while the rhythm charts of the first two steps have some confusion. 4) Of the thirteen Tonic Sol-fa charts, nine are for the first, three are for the second and one is for the third step of the above mentioned six steps. The fact that the first step charts make up the biggest group tallies with the recollection of an alumna of Kobe College, Chie Yanagida. According to her, the music teacher Miss Elizabeth Torrey (1848-1921) did not start with all of the seven notes of the diatonic scale but only three, do mi and so, using charts, or moving her hands up and down and so on, saying repeatedly "one thing at a time". 5) Of the seventy three charts of the Tonic Sol-fa System recorded in Kobe College's inventory of the year 1925, nineteen, that is a little more than a quarter, have survived.

**Keywords:** Tonic Sol-fa, Wall Charts, Music Education, Elizabeth Torrey, Kobe College

## 1) 本論の目的

本論の目的は、神戸女学院大学図書館所蔵のトニック・ソルファの掛図（全19本）について、その音楽的内容を検討することによって明治期の音楽教育の実態の一端を明らかにすることである。これら19本の掛図の資料的側面についてはすでに別稿で論じたが<sup>1)</sup>、その際、音楽的内容には踏み込む余裕がなかった。その課題を本論で引き受ける。

トニック・ソルファ (Tonic Sol-fa) とは19世紀半ばに英国で発明された簡易譜による視唱の指導法<sup>2)</sup>である。これは相対音高をシラブル (d=ド、r=レ、m=ミ、f=ファ、s=ソ、l=ラ、t=テイ) で示す文字譜としてのトニック・ソルファ譜の使用によって、またそれに先立つパターン（教師の歌う範唱）、モデュレイター（音程関係や転調関係を示す表、音階図）、ハンドサイン（相対音高を示す手指の形）の併用によって五線譜の持つ欠点を補うものであり、「誰でも楽々と、しかも正しく歌えるようになる簡単な指導法」として広く国際的に普及した。この指導法の提唱者サラ・アンナ・グラヴァー (Sarah Anna Glover, 1786~1867) と同指導法の確立者として知られるジョン・カーウエン (John Curwen, 1816~1880) との業績については東川清一『退け、暗き影「固定ド」よ！ソルミゼーション研究』（音楽之友社、1983）に詳しいので<sup>3)</sup>、ここでは触れない。日本への導入の概要についても上述の別稿で触れたので、ここでは繰り返さない。

明治期の音楽掛図についての先行研究はいずれも五線譜による掛図を論じており<sup>4)</sup>、トニック・ソルファの掛図に関する研究は管見の限りこれまで行なわれていない。

本論においては、本学図書館に残るトニック・ソルファの教本と照合することによって、掛図の音楽的内容の特徴を明らかにすることをめざす。掛図の内容とその特徴を理解するためには、トニック・ソルファ法の教育システムとそこで設けられている6つの段階を踏まえることが必要だからである。

## 2) トニック・ソルファの教本

ここで取り上げる教本は1890年出版の『トニック・ソルファ・ミュージック・リーダー (*The Tonic Sol-Fa Music Reader, revised and improved. A Course of Instruction and Practice in the Tonic Sol-Fa Method of Teaching Singing, with a Choice Collection of Music Suitable for Day Schools and Singing Schools,*

- 1) 津上智実「トニック・ソルファの掛図」(「図書館の宝物から」シリーズ第3回) 神戸女学院史料室『学院史料』第28号(2015年3月) 46~56頁。
- 2) *Grove Music Online* の 'Tonic Sol-fa' の項には「19世紀半ばにサラ・アンナ・グラヴァー Sarah Anna Glover [1786~1867] によって発明され、ジョン・カーウエン John Curwen [1816~1880] とジョン・スペンサー・カーウエン John Spencer Curwen [1847~1916] とによって広範に普及された記譜の形式と視唱のシステム」とある(2014年12月24日アクセス)。
- 3) 同書、第2部第7章参照。
- 4) 東京芸術大学音楽取調掛研究班編『音楽教育成立への軌跡——音楽取調掛資料研究』（音楽之友社、1976）第1節「小学唱歌集と唱歌掛図」、安田寛「唱歌の起源——目賀田種太郎関係資料と唱歌掛図復元——」『山口芸術短期大学』第29巻(1997)等。

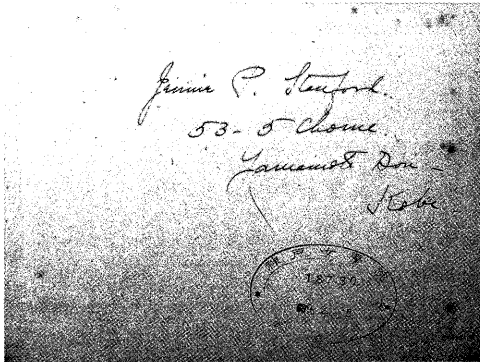


写真1 『T. S. F. M. リーダー』巻頭のサイン

by Theodore F. Seward & B. C. Unseld, Approved by John Curwen. The Biglow & Main Co., Publishers, 135 Fifth Avenue, New York; Lakeside Building, Chicago. 1890)』(本学図書館請求番号:784/SE1)である(以後『T. S. F. M. リーダー』と略記)。

この教本は、表紙裏の遊び紙に「Jannie P. Stanford, 53-5 Chome, Yamamoto Dori, Kobe」の書込みがあり(写真1参照)、山本通時代の神戸女学院で音楽教師ジェニー・スタンフォードが教育用に使用したものと理解される。

ジェニー・スタンフォード(Mrs. Jennie Pearson Stanford, 1856-1941)は1887年来日して京都伝道区で活動していた宣教師であるが、本学の音楽教師の不足を補うために1889年から1890年まで嘱託、1897年から翌年まで専任として音楽を教えた(1900年から1903年まではソール院長の帰米中に院長代理を務めた)。1890年5月8日付のブラウン書簡は次のように伝える。

「大阪からオルチン氏に週に一度、京都からスタンフォード夫人に週に三度来ていただいているということをお伝えすれば、私どもの音楽教師の必要がどれ程差し迫ったものであるか、先生はご理解下さいますでしょう。もちろん、これは一時しのぎの措置でございます。どうしたところで来学期も続けられるというものではございません。」(1890年5月8日、ブラウン書簡、第235号)<sup>5)</sup>

この前後に音楽教師として本学に関わった主な人物、すなわちスタンフォード、ジョージ・オルチン(George Allchin, 1852~1935)、エリザベス・タレー(Elizabeth Torrey, 1848~1921)とシャーロット・デフォレスト(Charlotte Burgis De Forest, 1879~1973)の在任期間を図示すると次頁の表1のようになる。

スタンフォードが『T. S. F. M. リーダー』を用いて指導に当たったのは嘱託時代か専任時代か、あるいはその両方なのかは不明であるが、嘱託時代であればオルチンと、専任時代であればタレーと組んで教育に当たったことになる。この内、オルチンは1882年の来日以来、大阪の教会や梅花女学校を中心に歌唱指導の実績を積んで、トニック・ソルファ指導法の日本での有効性を1889(明治22)年9月20日のフェリス和英女学校(現在のフェリス女学院)での講演で主張するなど、日本におけるトニック・ソルファ教育の強力な推進者であった。一方、タレーは1892年から梅花女学校で音楽の指導に当たり、その際、トニック・ソルファ法を用いて徹底的な教育を行なったことで知られる<sup>6)</sup>。しかもオルチンとタレーは梅花女学校でも本学でもタ

5) 神戸女学院史料室『学院史料』第11号(1993)3頁。

6) 安田寛「神戸女学院の音楽教育、アメリカン・ボード日本ミッション音楽教育史 その四」『キリスト教社会問題研究』第51号(2002)189~212頁参照。

表1 本学音楽教師の在任期間

教師名 (生没年)	来日期間	本学音楽教師の在任期間		
オルチン (1852～1935)	1882～1919	1889-90 嘱託	1894-5 嘱託	(1906-----18) (理事)
スタンフォード (1856～1941)	1887～	1889-90 嘱託	1897-98 (1900-03) 専任 (院長代理)	
タレー (1848～1921)	1890～1909	1892-3 嘱託	1894-----09 専任	
デフォレスト (1879～1973)	1905～1950			1909-----15 専任

グを組んで教えていた時期があったので、共通の教本を用いていたことも考えられる。とするなら、いずれにしても『T. S. F. M. リーダー』は当時の本学トニック・ソルファ教育において標準的な教本であった可能性が高い。

本学図書館に残るトニック・ソルファ教本としては下記の表2に掲げた5点があるが、『T. S. F. M. リーダー』を例外として、掛図の内容(練習課題)との関わりはほとんど見られない(掛図と『T. S. F. M. リーダー』との共通課題については後述の表5参照)。この点も『T. S. F. M. リーダー』が標準的な教本であった可能性を示唆する。

そこで、次にこの『T. S. F. M. リーダー』を用いて、トニック・ソルファ法の6段階を整理してみよう。

表2 本学所蔵のトニック・ソルファ教本(出版年順、請求番号順)

著者	書名	出版社、出版年	請求番号	備考
John Curwen	<i>How to read music and understand it</i>	J. Curwen & Sons Ltd., 1881	780.77/CU1	取れた表紙を別紙で補って「Kobe College, Music Library, How to Read Music」の書込み(デフォレストの筆跡)
同上	同上	同上	780.77/CU1/ C.2	表紙に「Kobe College, Teacher's Copy」の書込み(デフォレストの筆跡)
Daniel Batchellor & Thomas Charmbury	<i>Manual for teachers, and rote songs, to accompany the Tonic sol-fa music course for schools</i>	Oliver Ditson, 1887	784/BA2	表紙裏の遊び紙に「Toki Fujita」の書込み
Theodore F. Seward and B. C. Unseld	<i>The tonic sol-fa music reader, Rev. and improved</i>	Biglow & Main, 1890	784/SE1	表紙裏の遊び紙に「Jannie P. Stanford, 53-5 Chome, Yamamoto Dori, Kobe」の書込み
同上	同上	同上	784/SE1/ C.2 V.1	書込みなし、破損頁の補修あり

### 3) トニック・ソルファ法の6段階

トニック・ソルファ法は6つの段階（ステップ）で構成される。カーウエンは「私のいう段階とは、生徒が立ちどまってみずからを試験し、自分の仕事のいろいろな区分（音高、リズム、表現）の足並をそろえるよう期待される上達段階のことである」と述べている<sup>7)</sup>。これらはペスタロツィの音楽教育の原則すなわち要素別学習を踏まえて構成されている。各段階の学習内容は教本によって多少の幅があるが、ここでは『T. S. F. M. リーダー』の記述に従って各段階の概要を表3に示す。

表3 トニック・ソルファ教育の6段階<sup>8)</sup>

段階	音高	リズム
第1	ドミソの音を聞き分けて歌う。上のドと下のソを聞き分けて歌う。	強拍と弱拍を聞き分けて歌う。最も単純な拍の分割、すなわち1拍、半拍、2拍子と3拍子。
第2	ドミソの音に加えて、レとティを聞き分けて歌う。	中強拍を聞き分けて歌う。4拍子、6拍子。全休符、3拍子での八分音符、付点四分音符と八分音符の組み合わせ。
第3	ファとラを加えて音階を完成する。ピッチ・チューン、声の分類。	メトロノーム、半拍の休符、四分音符の様々な組み合わせ、精神的効果の修正。
第4	音階の構造。第1シャープ調と第1フラット調。半音階的解決、終止。一時的転調と決定的転調、旋律のピッチを定めること。	3分の1拍、拍子の取り方。シンコペーション。
第5	旋法、長調と短調、近代的短調、転旋、転旋調。	
第6	1親等を越える転調。	

表3から見て取れるように、音高に関しては、第1段階で主和音の構成音（ドミソ）を教え、第2段階で属和音の構成音（ソシレ）を加え、第3段階で下属和音の構成音（ファラド）を加えて全音階を完成し、その後、第4段階から第6段階まで転調の範囲を広げていくという組み立てになっている。

リズムに関しては、第1段階で強拍と弱拍のみの組み合わせによる2拍子と3拍子、第2段階で中強拍が加わって4拍子と6拍子、第3段階で半拍の休符、第4段階で三連符とシンコペーションと組まれている。

### 4) トニック・ソルファ掛図の音楽的内容

以上を踏まえて、本学所蔵のトニック・ソルファ掛図（全19本）の音楽的内容と特徴を考察する。

まず、掛図の記載内容をまとめたものを別表1「トニック・ソルファ掛図内容一覧」として

7) 東川清一、前掲書、167頁。

8) 『T. S. F. M. リーダー』（1890）の各段階の冒頭にイタリック体で記された概要を訳出した。訳語については東川清一の前掲書に掲げられたカーウエンの著書による6段階表（168頁）を参考にした。

本論の末尾に掲げる。この内、掛図 No. 16「2の三」Ex. 6に記載の「t」は音楽的に考えて「t<sub>1</sub>」の明らかな誤記と考えられる。

掛図19本を記載内容の種別で分類すると、モデュレイター（音階図）3本、リズム譜3本、トニック・ソルファ譜13本の3種から成る。

また、上述のトニック・ソルファ法の教程の6段階に従って分類すると、第1段階に属するものが11本、第2段階が5本、第3段階が3本となる。これを図示すると表4のようになる。

表4 トニック・ソルファ掛図（全19本）分類表

	モデュレイター	リズム譜	トニック・ソルファ譜	本数
第1段階	1本 (No. 1)	1本 (No. 13)	9本 (Nos. 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12)	11本
第2段階	1本 (No. 2)	1本 (No. 2)	3本 (Nos. 14, 15, 16)	5本
第3段階	1本 (No. 18)	1本 (No. 19)	1本 (No. 17)	3本
本数	3本	3本	13本	19本

表4においてリズム譜の並びに乱れが見られるが、これは掛図 No. 13には八分音符までの音長が用いられているのに対して、掛図 No. 2には十六分音符までが使われているためである。掛図 No. 13には第2段階の教材の意で「2の一」と明記してあり、この点で掛図作成者の理解と『T. S. F. M. リーダー』の段階分けとの間には齟齬が見られる。

表4から明らかなように、第1段階の掛図が圧倒的に多い。まずはドミソの音をしっかりと教えることが掛図を用いた教育で目指されていたことが分かる。これは本学音楽部の初期卒業生の一人、柳田ちゑ（旧姓安福、第24期卒業生、音楽部師範科卒）の回想とも合致する。柳田は音楽教師エリザベス・タレーの指導について次のように記している。

「さて、先生が生徒をして真に音楽を了解せしめん為に初歩として用いられしは、タニクソフワー式でありました。その式は一見簡単ですが、何分理論に富む事とて、先生には生徒をして容易に覚えしめん為、特殊なる方法を用いられ、例えば音楽を教えるにしても、最初より七音を用いられず、ドミソの三音を以って其の音程を明らかにする為掛図を用いられたり、手を上下にされたり、又は文字に高低を付けて生徒を階名で答えしめられました。右の三音を明白に覚えしめた後、関係ある音を順次に教えられ、決して先生は一時に多くの事を教えられず、One thing at a time を繰り返し繰り返し申されました。」<sup>9)</sup>

ここで「ドミソの三音を以って其の音程を明らかにする為掛図を用いられたり」は正にこれらの掛図の活用法を示しており、「手を上下にされたり」はハンドサインの使用を、「又は文字に高低を付けて生徒を階名で答えしめ」はモデュレイターの使用を指している。「右の三音を明白に覚えしめた後、関係ある音を順次に教えられ」は第1段階（主和音の構成音、ドミソ）の習得後、第2段階（属和音の構成音、シレ）から第3段階（下屬和音の構成音、ファラ）へ

9) 柳田ちゑ「恩師タレー先生のお働きに就て」『めぐみ』改号2号（大正11年8月14日）7～8頁。

と進んでいったことを指している。

その際、「決して先生は一時に多くの事を教えられず、One thing at a time を繰り返し繰り返し申されました」は、一つ一つの階梯を徹底してみっちりと教えたことを示している。

ちなみにタレーの梅花女学校時代の書簡に、「私は文字通り基礎から叩き上げた。最初の一年間は、われわれは『第一段階』だけ歌うことができた」<sup>10)</sup>とあり、場合によっては最初の1年間をかけて基礎を叩き込むという形であったことが知られる。そのために第1段階の掛図が多数用意されたものと理解される。

次に、掛図の課題と『T. S. F. M. リーダー』記載の課題との対応を示すと表5のようになる。

表5 掛図課題と『T. S. F. M. リーダー』課題との対応表

掛図の課題番号	『T. S. F. M. リーダー』	備考
Ex. 12	No. 40の上声 (歌詞あり)	歌詞 = Great and good is God our Father, Great and good, great and good / Trees and birds and flow'rs declare Him, Great and good, great and good.
Ex. 13	No. 42の上声	
Ex. 14	No. 41 (歌詞あり)	歌詞 = Join in singing Hallelujah! Hallelujah! Amen. ["Round for four parts" の注記有]
Ex. 15	No. 46の上声	ただし3小節目前半まで
Ex. 27	————	= No. 51の上声 ( <i>The Standard Course</i> , 11版の) <sup>10a)</sup>
Ex. 28	————	= Ex. 41の上声 (同書, 3版の) <sup>10b)</sup>
「2の一」Ex. 1	No. 54	
「2の二」Ex. 4	No. 56	ただし前半のみ

このように掛図の課題の内、『T. S. F. M. リーダー』記載の課題と共通するものが6点あり、その他の教本との共通課題はわずか2点である。掛図の記載内容は『T. S. F. M. リーダー』と最も関わりが深いことが明らかである。

なお、『T. S. F. M. リーダー』では、第1段階の課題として、音高については、Doh-Soh (D, F, C 調で)、Doh-Me-Soh (D, F, C 調で) (E, G 調で)、Doh-Me-Soh-d<sup>1</sup> (C, D 調で)、s<sub>1</sub>-Doh-Me-Soh-d<sup>1</sup> (F, A, G 調で)、リズムについては、2拍子、3拍子、四分音符、四分休符、弱起、2声体 (D, F, C, G 調で)、八分音符 (同左) が挙げられている。

また、掛図の練習課題のリズム的側面について見ると、2拍子が第1段階で14点、第2段階で6点の計20点、3拍子が第1段階で5点、第2段階で1点の計6点、4拍子が第3段階で2点ある (次頁の表6参照)。このように、まずは2拍子でしっかりと学ばせながら、3拍子にも慣れさせる形となっている。

10) 宣教師文書のタレー書簡 (Torrey to Barton, May 28, 1895).

10a) John Curwen: *The Standard Course of Lessons and Exercises in the Tonic Sol-fa Method of Teaching Music*, 11<sup>th</sup> ed., London, J. Curwen & Sons, 1895.

10b) *ibid.*, 3<sup>rd</sup> ed., London, Tonic sol-fa agency, 1876.



表6 トニック・ソルファ譜の拍子

	トニック・ソルファ譜の練習番号	課題数
2拍子	(第1段階) Ex. 12, 14, 15, 16, 17, 18, 21, 22, 23, 24, 26, 27, 28, 30 (第2段階) Ex. 1, 2, 3, 4, 5, 7	14 + 6 = 20点
3拍子	(第1段階) Ex. 13, 19, 20, 25, 29 (第2段階) Ex. 6	5 + 1 = 6点
4拍子	(第3段階) Ex. 1, 2	2点

## 5) トニック・ソルファ教材の手配と処分

ところで、本学においてトニック・ソルファの教材がどのようにして手配されたのかを知る手掛かりが宣教師文書のタレー書簡に、一方、どのようにして処分されたのかを窺わせる手掛かりが1925年の財産目録にある。

宣教師文書として伝わるタレー書簡は、用箋の裏表に記入したために裏側のインクが表面に響いてマイクロフィルムではほとんど判読不能のものや、インクの濃淡の差が大きいために複写の濃度調整が困難なものがあり、悪筆のためもあるが難読箇所が多数に上る。デジタルカメラで撮影した画像を用いることができれば、用箋の表面と裏面のインクの区別等ができる可能性があるが、これは今後の課題とする他ない。従って部分的に読み取れた範囲での情報ではあるが、1892年8月27日付と1902年4月12日付の2通の書簡でトニック・ソルファへの言及が見られる。前者は梅花女学校時代、後者が神戸女学院時代のもので「日本国、神戸、神戸女学院 (Kobe College, Kobe, Japan)」と明記されている。この書簡では、190人の女生徒の内、五線譜を読めない者があるのに対して150人はトニック・ソルファ譜が読めるので（'while 150 read & understand Tonic Sol-fa'）『T. S. Fによる教会讚美歌集（*The Church Praise Book in T. S. F.*, Biglow & Main）』をもう100冊送ってほしいと依頼している。ここで「T. S. F」がトニック・ソルファ (Tonic Sol-Fa) を指していることは自明である。

他方、1925年の財産目録 (Kobe College Inventory, 1925) には「藤田とき作成の音楽部蔵書一覧 (Books in Music Department, Taken by T. Fujita, Date: Dec, 1925)」があり、トニック・ソルファ関係の教材として下記のもの挙げられている (表7参照)。

表7 1925年の財産目録に見るトニック・ソルファ関係教材

冊数	書名	単価	財産高
17	Tonic Sol-fa Charts	1.00	1700
31	Tonic Sol-fa Charts (paper)	60	1860
100	Tonic Sol-fa books	20	2000
440	Tonic sol-fa booklets (For Sale)	1.50	4400
25	25 Charts (Tonic Sol-fa)	1.50	500

表7から、1925年の時点ではトニック・ソルファ掛図として、単価1円と見積もられたものが17本、60銭の紙製が31本、1円50銭が25本の計73本あったことが知られる。また単価20銭とされた100冊のトニック・ソルファ本ないしは1円50銭の440冊のトニック・ソルファ小冊子のいずれかは、上記の1902年4月12日付書簡でタレーが依頼した100冊を含んでいた可能性がある。後者の小冊子の欄に「売却用 For Sale」の記入があることから、1933年のキャンパス移転に向けて不要教材の売却や処分が行なわれたと想像される。そうした歴史を潜り抜けて、73本の四分の一強に当たる19本が今日まで伝えられているのである。

## 6) 音楽掛図による教育

音楽掛図については、早くも1875(明治8)年12月6日付のドーン宣教師の書簡が「音符で音楽を教えることについて…もしも音楽掛図、メーソンのものを言っているのですが、それがあれば教えることがとても楽になるでしょう…私の経験から言えば、掛図は音楽を教えるのになくはないものです」と有効性と必要性を訴えたことが指摘されている<sup>11)</sup>(ただし、メーソンの掛図は五線譜によるものである)。

オルチンも1889(明治22)年9月20日に横浜のフェリス和英女学校(現在のフェリス女学院)で行なったトニック・ソルファ紹介の講演で、「最初は文部省が作った Charts と Music Readers を用い、とても便利だと思った。次に、低学年で modulator とトニック・ソルファの練習を黒板に書いて行なったところ、はるかに良い結果が得られたため、五線譜による文部省の教材とトニック・ソルファを併用している」<sup>12)</sup>と掛図(Charts)の活用に着目している。

この講演を聞いたフェリス女学院の音楽教師ミス・モルトン(Julia A. Morton, 1852~1922)について、『フェリス女学院100年史』<sup>13)</sup>は次のように伝える。「就任して間もない頃、関西本面の学校や教会で、トニック・ソルファ方式で音楽を教えているオルチン氏が本校講堂で講演した。ミス・モルトンはこの方式の開発的なことを悟り、“Tonic Sol-fa”(字音記譜法)による音楽を教授するため、オーストラリア人ミセス・パットンの門下に入り、自分の生徒に自ら証書を与える資格を取り、同法によってフェリス女学校の生徒の音楽的才能技法を発達させ、今日のフェリスの音楽の基礎をつくった」。さらに同書の178頁には教科書『T. S. F. M. リーダー』の表紙と一見開きの写真が、179頁には「トニック・ソルファによる音楽教育」というキャプション付の写真が掲げられており、後者ではアップライト・ピアノのある教室の壇上に大判のモデレイターが高く掲げられている。このモデレイターは本学所蔵の掛図 No. 18と基本的に同じものと思われる<sup>14)</sup>。本学所蔵のものと同種の教本と掛図が広く使われて

- 
- 11) 安田寛「京都と神戸ステーションの音楽教育史——アメリカン・ボード日本ミッション音楽教育史、その二」『キリスト教社会問題研究』第47号(1998)30頁。
  - 12) 武石みどり監修、東京音楽大学創立百周年記念誌刊行委員会編『音楽教育の礎、鈴木米次郎と東洋音楽学校』(春秋社、2007)、37頁。
  - 13) フェリス女学院100年史編集委員会編『フェリス女学院100年史』(横浜:フェリス女学院、制作:東京中央公論事業出版、1970)、177頁。
  - 14) この写真はフェリス女学院『フェリス女学校110年小史』(1982)の口絵にも「文学会風景」というキャプション付きで収められている。フェリス女学院は関東大震災や第二次世界大戦の空襲に見舞われており、現物は残念ながら伝承されていないとのことである。

いたことを窺わせる例と言える。

このように、明治期の音楽教育においては掛図が必需品として広く使われたことが窺われる。だが、今日実際に残っている掛図の現物が少ないということもあって、トニック・ソルファ掛図についての先行研究は皆無に等しい。本学に残る貴重な現物についても、その内容に立ち入って報告するのは本論が最初である。この貴重な掛図が永く保存されることを望みたい。

(原稿受理日 2015年2月22日)

別表) トニック・ソルファ掛図一覧

(2015年2月15日、津上智実作成)

No.	掛図番号	Ex. 番号	内容	備考	旧番号
1	—	—	[音階図] 5音 (s <sub>1</sub> , d, m, s, d <sup>1</sup> ): 5音 (s <sub>1</sub> · · d · m · s · · d <sup>1</sup> )		2
2	—	—	[音階図] 9音 (s <sub>1</sub> , t <sub>1</sub> , d, r, m, s, t, d <sup>1</sup> , r <sup>1</sup> ): 9音 (s <sub>1</sub> · t <sub>1</sub> d r m · s · t d <sup>1</sup> r <sup>1</sup> )		1
3	—	—	[リズム譜] 3種 音価4種 (付点二分音符、二分音符、四分音符、八分音符)、休符1種 (四分休符)、2/4、8小節:   1 : 1   - : 1   1 : -   - : 1     1 . 1 : 1 . 1   1 :   1 :   1 : -    音価4種 (二分音符、付点四分音符、四分音符、八分音符)、休符2種 (全休符、四分休符)、2/4、8小節:   1 . 1 : 1   1 : 1 . 1   1 : - . 1   1 : 1     :   :   1 :   1 : -    音価4種 (二分音符、四分音符、八分音符、十六分音符)、休符1種 (四分休符)、2/4、8小節   1 :   1 :   1 . 1 : 1 . 1   1, 1 . 1, 1 : 1 . 1     1 . 1 :   1 . 1 :   1, 1 . 1, 1 : 1, 1 . 1, 1   1 : -		4
4	四	Ex. XII Ex. XIII	4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、2/4、音価2種 (二分音符、四分音符)、8小節   d : d   m : m   s : s   d <sup>1</sup> : s     d <sup>1</sup> : s   m : -   m : s   d : -    4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、3/4、音価3種 (全音符、二分音符、四分音符)、8小節   d : d : d   m : m : m   d : m : s     d <sup>1</sup> : - : -   d <sup>1</sup> : d <sup>1</sup> : d <sup>1</sup>   s : s : s     d <sup>1</sup> : s : s   m : d : -	=No. 40の上声 (歌詞あり)  =No. 42の上声	11
5	五	Ex. XIV Ex. XV	4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、2/4、音価2種 (二分音符、四分音符)、16小節 {   d <sup>1</sup> : s   m : d   m : s   d <sup>1</sup> : d <sup>1</sup> } {   s : s   s : s   s : -   s : - } {   m : -   m : -   m : m   m : m } {   d : m   s : m   d : -   d : - } 4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、2/4、音価3種 (二分音符、四分音符、八分音符)、4小節 {   d : m   s . s : m   s . s : d <sup>1</sup> . d <sup>1</sup>   d <sup>1</sup> : -	=No. 41 (歌詞あり)  =No. 46の上声 (ただし3小節目前半まで)	17
6	六	Ex. XVI Ex. XVII Ex. XVIII	5音 (d, m, s, d <sup>1</sup> , m <sup>1</sup> )、2/4、音価2種 (四分音符、八分音符)、8小節   d . d : m . m   s . d <sup>1</sup> : s   s . s : m . s   m . d : s     m . m : s . s   d <sup>1</sup> . m <sup>1</sup> : d <sup>1</sup>   m . s : d <sup>1</sup> . s   m . s : d    4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、2/4、音価3種 (二分音符、四分音符、八分音符)、8小節   s . s : m . s   d <sup>1</sup> : s   m . m : d . m   s : -     m . m : s . s   m : d   s . s : m . s   d <sup>1</sup> : -    4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、2/4、音価2種 (四分音符、八分音符)、4小節   s . s : m   s . s : d   s . s : d <sup>1</sup> . m   d <sup>1</sup> . s : d		5

別表) トニック・ソルファ掛図一覧

(2015年2月15日、津上智実作成)

No.	掛図番号	Ex. 番号	内容	備考	旧番号
7	七	Ex. XIX	4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、3/4、音価3種 (全音符、二分音符、四分音符)、16小節 {   d : - : m   s : - : d <sup>1</sup>   s : - : - } {   m : - : -   s : - : -   m : - : m } {   d : - : m   s : - : -   d : - : m } {   s : - : d <sup>1</sup>   s : - : -   m : - : - } {   s : - : s   d <sup>1</sup> : - : s   m : - : s }   d <sup>1</sup> : - : -		16
8	八	Ex. XX  Ex. XXI	3音 (d, m, s)、3/4、音価3種 (全音符、二分音符、四分音符)、12小節   s : s : s   s : - : m   d : - : m     s : - : -   m : m : m   m : - : d     m : - : s   d : - : -   d : - : -     d : m : -   d : m : -   d : - : -    4音 (s <sub>1</sub> , d, m, s)、2/4、音価2種 (四分音符、八分音符)、4小節、弱起 : s <sub>1</sub> . s <sub>1</sub>   d : m   d : s <sub>1</sub> . s <sub>1</sub>   m : m. m   s		12
9	九	Ex. 22  Ex. 23  Ex. 24	4音 (s <sub>1</sub> , d, m, s)、2/4、音価3種 (二分音符、四分音符、八分音符)、8小節   d. d : s <sub>1</sub> . d   m : m   m. m : d. m   s : - }   s. s : m. m   s. s : m. m   d. d : d. s   d : -    4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、2/4、音価3種 (二分音符、四分音符、八分音符)、8小節   d <sup>1</sup> . s : s. m   d <sup>1</sup> . s : s. m   d : d   d : - }   m : m   m : -   s : s   s : -    4音 (s <sub>1</sub> , d, m, s)、2/4、音価2種 (四分音符、八分音符)、4小節   d : m. d   s : m. m   s : s <sub>1</sub> . s <sub>1</sub>   d. s : m. m		9
10	十	Ex. 25     Ex. 26	3音 (d, m, s)、3/4、音価3種 (全音符、四分音符、八分音符)、8小節、2声   m. m : m. m : s. m   d : - : -   m. m : m. m : s. m     : :   m. m : m. m : s. m   d : - : -     d : - : -   s. m : s. m : s. m   s : - : -     s. m : s. m : s. m   d : - : -   s. m : s. m : s. m     s. m : s. m : s. m   s : - : -      m : m : m   m : - : -    5音 (s <sub>1</sub> , d, m, s, d <sup>1</sup> )、2/4、音価2種 (四分音符、八分音符)、4小節   d : m. s   d <sup>1</sup> . s : s   s <sub>1</sub> . s <sub>1</sub> : m. m   d. s : d <sup>1</sup> . d		7

## 別表) トニック・ソルファ掛図一覧

(2015年2月15日、津上智実作成)

No.	掛図番号	Ex. 番号	内容	備考	旧番号
11	十一	Ex. 27	4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、3/4、音価1種 (四分音符)、休符2種 (二分休符、四分休符)、8小節   d : m . s   d <sup>1</sup> . s : s   s <sub>1</sub> . s <sub>1</sub> : m . m   d . s : d <sup>1</sup> . d    {   s : s : :   s : s : :   m : m : : } {   m : m : :   d <sup>1</sup> : d <sup>1</sup> : d <sup>1</sup>   d <sup>1</sup> : d <sup>1</sup> : d <sup>1</sup> } {   d : : d   d : : :	=No. 51 の上声 (The Standard Course の)  =1876 の Ex. 41 の 上声	10
		Ex. 28	4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、2/4、音価3種 (二分音符、四分音符、八分音符)、8小節   d : m   s : s   d . m : s . d <sup>1</sup>   s : — }   m : s   d <sup>1</sup> : d <sup>1</sup>   d <sup>1</sup> . s : d <sup>1</sup> . s   m : —		
12	十二	Ex. 29	5音 (s <sub>1</sub> , d, m, s, d <sup>1</sup> )、3/4、音価3種 (二分音符、四分音符、八分音符)、8小節、弱起 [ : s <sub>1</sub>   d : d . d : d . d   d : s <sub>1</sub> : d   m : m ] [ : m . m   m : — : d <sup>1</sup>   s : s . s : s . s   d <sup>1</sup> : m ] [ : d   s <sub>1</sub> : s : s   d : —		14
		Ex. 30	4音 (d, m, s, d <sup>1</sup> )、2/4、音価3種 (二分音符、四分音符、八分音符)、8小節 [   d <sub>1</sub> : s   m : m   s : m   d : — ] [   d . d : d . d   m . m : m . m   s . s : s . s   d <sup>1</sup> : —		
13	2. 一	Ex. 1	[リズム譜] 3種 2/4、音価4種 (二分音符、付点四分音符、四分音符、八分音符)、休符1種 (四分休符)、8小節: {   1 : —   1 : :   1 : — . 1   1 . 1 : 1 . 1 } {   1 : :   1 : — . 1   1 : 1 : 1   1 : —	=No. 54	13
		Ex. 2	2/4、音価4種 (二分音符、付点四分音符、四分音符、八分音符)、休符1種 (四分休符)、8小節: {   1 : 1 . 1   1 : — . 1   1 : :   1 : : } {   1 . 1 : 1 . 1   1 . 1 : — . 1   1 : — . 1   1 : —    <b>[シンコペーション]</b>		
		Ex. 3	2/4、音価4種 (二分音符、付点四分音符、四分音符、八分音符)、4小節 {   1 . 1 : 1   1 : 1 . 1   1 : — . 1   1 : —		
14	2. 一	Ex. 1	5音 (d, m, s, t, r <sup>1</sup> )、2/4、音価2種 (二分音符、四分音符)、8小節   d : m   s : —   s : t   r <sup>1</sup> : —     r <sup>1</sup> : t   s : m   d : s   d : —		6
		Ex. 2	6音 (s <sub>1</sub> , t <sub>1</sub> , d, r, m, s)、2/4、音価2種 (二分音符、四分音符)、8小節   d : m   s : —   s <sub>1</sub> : t <sub>1</sub>   r : —     s <sub>1</sub> : t <sub>1</sub>   r : t <sub>1</sub>   r : s <sub>1</sub>   d : —		
		Ex. 3	5音 (s <sub>1</sub> , t <sub>1</sub> , d, r, m)、2/4、音価2種 (二分音符、四分音符)、4小節   d : m   s <sub>1</sub> : t <sub>1</sub>   r : s <sub>1</sub>   d : —		

## 別表) トニック・ソルファ掛図一覧

(2015年2月15日、津上智実作成)

No.	掛図番号	Ex. 番号	内容	備考	旧番号
15	2. 二	Ex. 4	5音 (s <sub>1</sub> , t <sub>1</sub> , d, r, m)、2/4、音価2種 (二分音符、四分音符)、8小節   d : m   d : s <sub>1</sub>   t <sub>1</sub> : r   t <sub>1</sub> : —     t <sub>1</sub> : r   t <sub>1</sub> : s <sub>1</sub>   d : m   d : —	=No. 56 (前半のみ)	3
		Ex. 5	5音 (s <sub>1</sub> , t <sub>1</sub> , d, r, m)、2/4、音価2種 (二分音符、四分音符)、休符1種 (四分休符)、12小節   d : r   m : m   r : r   m : —     m : r   d : d   t <sub>1</sub> : t <sub>1</sub>   d : —     s :   s :   s <sub>1</sub> : s <sub>1</sub>   d : —		
16	2. 三	Ex. 6	6音 (s <sub>1</sub> , [t <sub>1</sub> ], d, r, m, s, t[ママ])、3/4、音価2種 (全音符、四分音符)、8小節 {   d : d : d   t[t <sub>1</sub> ] : t[t <sub>1</sub> ] : t[t <sub>1</sub> ]   d : d : } { : d   r : — : —   m : m : m   s : } { s : s   s <sub>1</sub> : s <sub>1</sub> : s <sub>1</sub>   s <sub>1</sub> : — : —	[Ex. 6の「t」は「t <sub>1</sub> 」 の誤記と思われる]	8
		Ex. 7	6音 (d, r, m, s, t, d <sup>1</sup> )、2/4、音価2種 (二分音符、四分音符)、8小節 {   s : m   d : m   r : r   m : —   } {   m : s   d <sup>1</sup> : d <sup>1</sup>   t : t   d <sup>1</sup> : —		
17	3. 一	Ex. 1	8音 (d, r, m, f, s, l, t, d <sup>1</sup> )、2/4、音価4種 (全音符、二分音符、四分音符、八分音符)、休符1種 (四分休符)、16小節 : {   m : d   f : _   f.m : r   m : } {   s : l.s   l : t   d <sup>1</sup> :   d <sup>1</sup> : } {   d <sup>1</sup> .s : m.d   r : _   m : l   s : } {   s : _   t : r <sup>1</sup>   d <sup>1</sup> : _   _ : _		15
		Ex. 2	5音 (d, r, m, f, s)、2/4、音価4種 (二分音符、付点四分音符、四分音符、八分音符)、休符1種 (二分休符)、8小節 : {   d : m.s   f : _f   m : _   :   } {   m.r : m.f   s : r   s : r   m : _		
18			「音階圖」[Eb, Bb, F, C, G, D, A] 売捌所、大阪西区京町堀四丁目、吉東任天書屋		18
19			The Time Chart, ed. by John Curwen 2拍子、3拍子、4拍子、6拍子、9拍子		19

[凡例] No. = 今回の内容調査に基づいて新たに与えた通し番号。

掛図番号 = 掛図表面の右端に毛筆で記入された漢数字の番号。

Ex. 番号 = 掛図表面の左側に手書きで記入された練習課題番号 (アラビア数字のものとローマ数字のものがある)。

内容 = 掛図のトニック・ソルファ譜の記載内容を書き抜いて文字情報としてまとめたもの。

備考 = 主に『T. S. F. M. リーダー』との一致箇所を示すが、他の教本との一致箇所やその他についても言及している。

旧番号 = 2004年10月29日の図書館による写真撮影と明細表作成に当たって与えられた番号。作業順に与えられた番号であるため内容と連動していない。